



『たまご 命が生まれるしゅんかん』  
ドーリング・キンダースリー社編集部 // 企画 編集  
水島 ぱぎい // 訳  
BL出版

卵から赤ちゃんが生まれる瞬間を見たことがありますか？卵の種類や、殻を割って出てくる様子など、卵から命が生まれて成長する姿が時間の経過に沿って分かりやすく説明されています。身近にいない生き物の卵も紹介されているので新たな発見にもなりそうです。

ページをめくるごとに自然の力の偉大さ、命の尊さを感じられる本です。

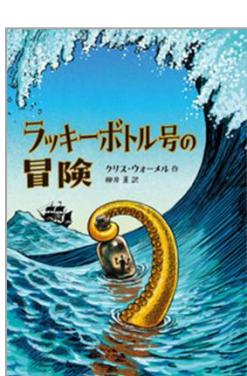
『読書感想文が終わらない！』

額賀 澄 // 作  
ポプラ社



夏休みの小学校の図書室には、読書感想文を助けてくれる謎の中学生フミちゃんがいる。仲間が抜けたスイミングスクールで孤独を感じる栄人、推し活仲間の熱量にとまどう優衣、読書感想文を買おうとする虎太郎など、問題を抱えた5人がフミちゃんの導きで、それぞれ自分の心と向き合った感想文を書けるようになるが…。

フミちゃんは一体何者なのか？



『ラッキーボトル号の冒険』  
クリス・ウォーメル // 作 柳井 薫 // 訳  
徳間書店

家出少年ジャックが乗った船が難破し、とある島に一人流れ着きます。絶望に打ちひしがれる彼の前に、ロビンソンと名乗る大男と巨大ガメのカリバンが現れて…。ジャックに待ち受ける運命とは？

名作『ロビンソン・クルーソー』を彷彿とさせる冒険活劇です。ジャックが仲間と共に知恵と勇気をふりしぶり、困難に立ちむかう姿に、心が踊ります。

図書館おすすめブックリスト

2026年2月発行

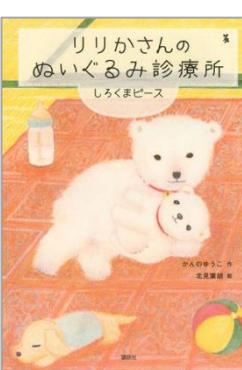
編集・発行 研波市立図書館



ハート

ココロふるえる本との出会いで ❤️ フル充電!!

No.32 小学4~6年生向け



『リリカさんのぬいぐるみ診療所』

しろくまピース  
かんの ゆうこ // 作  
講談社

リリカさんのぬいぐるみ診療所には、今日もたくさんの患者さんがやってきます。オルゴールが鳴らなくなつた“こひつじのめえちゃん”、たくさん遊ばれてぼろぼろになった“しろくまピース”…。

リリカさんはぬいぐるみを直すだけでなく、魔法もかけてくれます。それは持ち主とぬいぐるみの悩みや寂しさを癒してくれる、やさしい魔法です。



## 『おしゃべりねずみゴル・ゴーン・ゾラ』

小森 香折 // 作  
偕成社

食いしんぼうのゴル、無口だけど賢いゴーン、元気で怖いもの知らずのゾラは、人間の言葉を話せる個性豊かな子ねずみ三兄弟。3匹はチーズ屋に忍び込んだり、ねずみとり男と対決したりと大冒険をくり広げます。

3匹のやりとりにクスっと笑えて、互いを思いやりながら知恵を絞って勇敢に立ち向かう姿に、ハラハラドキドキ、楽しめます。

## 『宇宙でウンチ』

A.ポン”-=ストーン&C.ホイト // 作 L.ケンセイ // 絵  
千葉 茂樹 // 訳  
あすなろ書房

宇宙飛行士は宇宙船でどうやってウンチをするのでしょうか？1998年に打ち上げられた国際宇宙ステーションにトイレができるまで、実際にさまざまな苦労があり、アイデアが試されました。

ウンチを入れた袋がウンチのガスで爆発しそうになつた話や、地球めがけて打ち出されたウンチは大気圏で燃えて流れ星に見えるなど、面白い裏話も満載です。

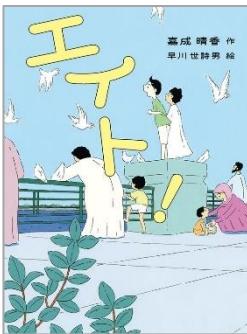


## 『転校先の小学校が思っていたのとちがった 1』

緑川 聖司 // 作  
國土社

小学5年生の義信は、父の転勤で山田山市に引っ越しました。転校生としての心構えの本を読んで準備はしてきたものの、「転校生200人達成」のくす玉が割られたり、先生用の席で授業を受けたりと、転校初日から予想外のことが次々と起こります。

こんな学校生活を送ることができたら楽しいだろうなど、思わず笑ってしまいます。



『エイト！』

嘉成 晴香 // 作  
あかね書房

不登校の小学5年生の永都は、突然母と一緒にエジプトで暮らすことになりました。文化の違いに驚きながらも、ムハンマドという優しい友達もでき、少しずつ生活にも慣れていきます。そして、コロナ禍をきっかけとしたアジア人差別を経験し…。

世界は広く、永都は多くのことに気づき、学びます。そんな彼の成長が、さわやかに描かれた物語です。

## 『牛革のランドセルができるまで

手から手へ、皮から革へ。』  
上吉川 祐一 // 写真 文  
文一総合出版



毎日使うランドセルがどうやって作られるか知っていますか？この本では、毛のついた牛の「皮」を、洗浄やなめしなどの工程を経て「革」にし、縫い合わせて「革製品」にするまでの職人たちの手仕事を丁寧に、ダイナミックな写真で見せてくれます。

食用肉として食べられた牛の「いのち」が、大勢の人の手から手に渡り、新たな「いのち」に生まれ変わっていることを実感できます。

## 『中受 12歳の交差点』

工藤 純子 // 著  
講談社



難関中学を目指し、追われるよう進学塾に通う新。勉強が苦手で友達を作れずにいた広翔は、自分に向いている学校があると知り受験を決める。つむぎは大好きなバレーボールを続けるため、「AO入試」に挑むが…。

クラスメイトの3人が、それぞれ「なんのために受験するのか?」という問い合わせに一年間向き合います。自分らしくいられる居場所を探し、3人が出した答えとは?